

阿蘇中央病院について ご意見をお寄せ下さい。

阿蘇中央病院は、阿蘇地域における医療水準の向上を図るため、経費の節減や、施設・設備の改修、透析の新設、療養病床の導入、救急外来の整備、看護体制のランクアップ等の改善を図ってきましたが、社会情勢の変化や医療制度改革等により厳しい経営内容となっています。

また、公立病院の役割は、採算性等の問題で民間の医療機関で対応できない分野を担うことにありますが、現在は民間の医療機関と医療分野が競合しており、CTやMRIなどの高度医療機器の整備も遅れています。

今後も病院経営を取り巻く環境が一層厳しくなる状況を踏まえ、阿蘇中央病院の抜本的な病院経営改革に取り組むため、平成19年3月、阿蘇中央病院経営改革委員会答申書が提出されました。

そこで、今後の経営改革の参考にさせていただくために、答申書に対するみなさんのご意見をお寄せ下さい。

【応募方法】

左の様式を切り取り、裏面にご意見並びにお名前等を必ずご記入の上、折りに沿ってのり付けして郵送してください。

【応募期限】

6月20日（水）までとします。

【その他】

今回掲載している答申書は要約です。

答申書全文については下記の場所でご覧になれます。ご利用下さい。

阿蘇市ホームページ 阿蘇中央病院
阿蘇市役所及び内牧・波野支所の
情報コーナー

【問い合わせ・提出先】

阿蘇市役所財政課
TEL 22-3204 FAX 22-4577
E-mail zaisei@city.aso.lg.jp

阿蘇中央病院経営改革委員会答申書（要約）

1. 現在の状況

運営状況

病床稼働率は一般病床で66%台と大変低く、外来患者数が年々減少しています。

職員の状況

医師の都市集中などにより地方の医師不足は深刻で、阿蘇中央病院も例外ではなく、現状を維持するのも困難な状況です。

（次ページに続く）

8 6 9

2 6 9 5

料金受取人払



差出有効期限
平成19年5月
1日～平成19年
7月31日
(切手不要)

阿蘇市役所
財政課
行

阿蘇市一の宮町宮地五〇四一

山折り

山折り

山折り

のりしろ

のりしろ

施設・設備の状況

建物は古いところでは築45年を経過しており、耐久性において問題です。また、廊下や病室が狭く、診療環境としては劣悪です。現在地は公共の交通機関が利用しづらい場所でもあります。

2. 改革の方向性

高度医療機器を導入して、他地域への依存度が高い脳卒中などの内科系の救急医療の充実を図ること。
救急患者を受入れ、患者が快方に向かえばかかりつけ医で診療するよう、地域の中核病院としての役割を果たすこと。
病院長もしくは管理者がリーダーシップを発揮して迅速で弾力的な経営体制を確立すること。
地域の実情及び今後の阿蘇中央病院の役割・機能を考慮し、病床数の調整及び診療科の見直しを早急に行うこと。
収支の明暗を分ける比重が非常に高い医師確保については大学等の連携を深め、より一層の努力を行っていくこと。
事務職員の在任期間を長期化するか、病院事務職としての採用を考えるなど事務職員の育成を行っていくこと。
職員研修等を充実させて意識改革を促し、待遇の改善及び活気あふれる明るい職場づくりを行うこと。
経営管理をより適正に行う為、収支の細分化を図り原価計算等を取入れ経営分析を明確化し、看護基準の見直し、診療報酬の点検強化、医療制度改正への迅速な対応を行うこと。
阿蘇中央病院が現在指定されている「災害拠点病院」の使命を果たしていくには、現有の施設では耐久性の観点からみると不安がある。移転改築するか、現有の建物を改修するかは本委員会でも意見が分かれたところですが、阿蘇中央病院が目指す病院の方向性及び医療の内容と規模並びに財政状況や収支見込等を総合的に判断して新築移転か改修かを選択することが必要である。

災害拠点病院とは、阪神・淡路大震災を教訓に被災地の医療確保、被災した地域への医療支援を行うため救急体制が確保できる指定病院

平成19年3月22日
阿蘇中央病院経営改革委員会
委員長 山下康行（熊本大学医学部教授・
付属病院副院長）
ほか10名

Large empty form area with a dashed border at the top and a solid border at the bottom, containing fields for '住所' (Address) and '氏名' (Name).